

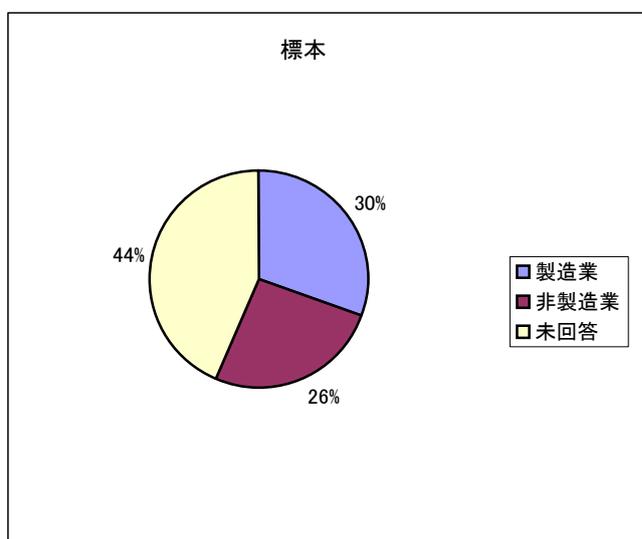
## A. 調査概要

1. 調査目的 四半期ごとに景気動向調査を実施し、管内景況を恒常的に把握する。  
調査を実施し恒常的に管内景況を把握する。
2. 調査期間 平成17年8月1日～5日
3. 調査方法 FAXにより依頼、回答
4. 調査対象 当所部会役員131社中、大企業を除く中小企業115社

※DI値＝「好調＋やや好調」(持ち直す)の回答割合から「悪い＋やや悪い」(悪化する)の回答割合を差し引いたもの。数値が高いほど景況感が良く、低いほど悪い。  
プラス100が最高値、0が平均、マイナス100が最低値を示す。

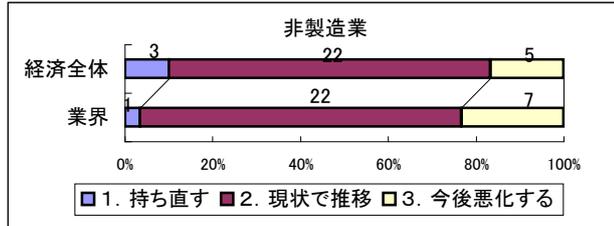
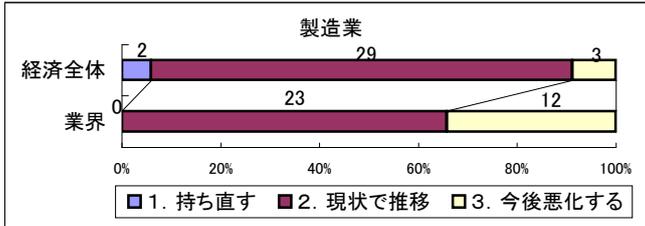
### 5. 標本数

	調査対象	回答		調査対象	回答	回答
一般工業	17	13	製造業	68	35	51.5%
建設業	18	7	非製造業	47	30	63.8%
醤油工業	4	3	合計	115	65	56.5%
食品工業	10	5	未回答		50	43.5%
皮革工業	19	7				
公益業	11	9				
サービス業	9	4				
商業	27	17				
合計	115	65				

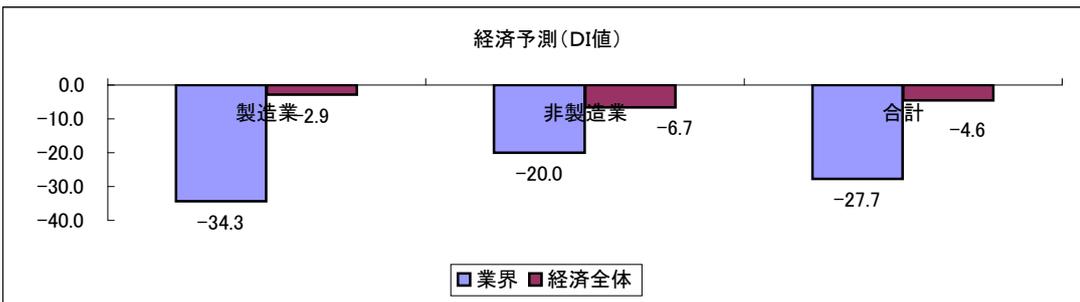


## B. 調査結果

### 1. 今後の経済予測

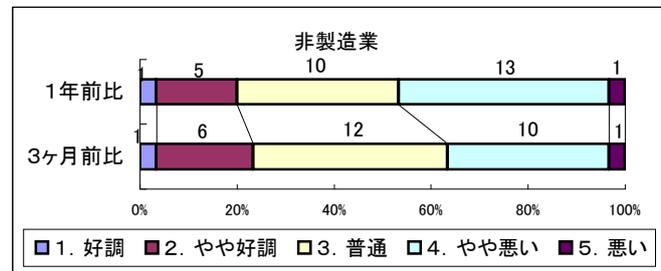
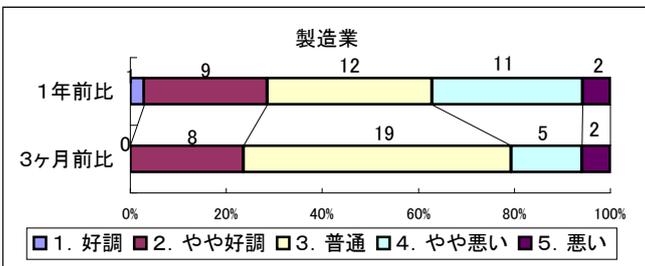


DI値	業界	経済全体	業界(前回)	経済(前回)
製造業	-34.3	-2.9	-31.4	-14.3
非製造業	-20.0	-6.7	-26.7	-6.7
合計	-27.7	-4.6	-29.2	-10.7

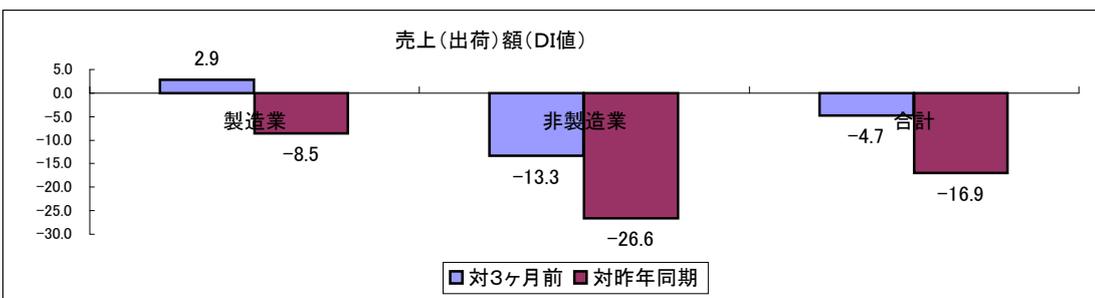


業界における経済予測において製造業ではDI値が2.9ポイント、マイナス値が拡大したものの、非製造業では6.7ポイント、マイナス値が縮小した。全体では昨年11月の調査以来、マイナス値が緩やかに拡大していたが、今回ようやく回復傾向となった。一方、経済全体では、非製造業で前回と同水準であり、製造業では11.4ポイント、マイナス値を縮小し、こちらも回復感が窺える。

### 2. 売上(出荷)額について

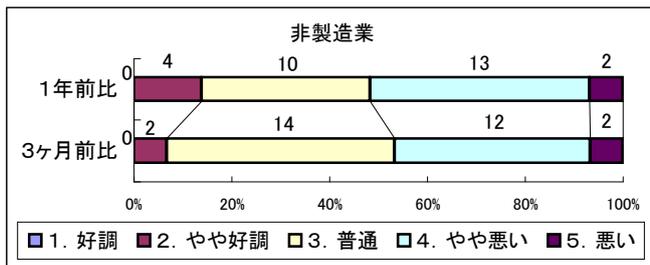
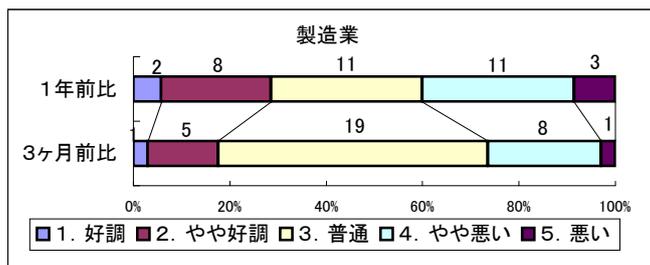


DI値	対3ヶ月前	対昨年同期	対3ヶ月前(前回)	対昨年同期(前回)
製造業	2.9	-8.5	-17.2	-17.1
非製造業	-13.3	-26.6	-6.6	-49.9
合計	-4.7	-16.9	-12.3	-32.4

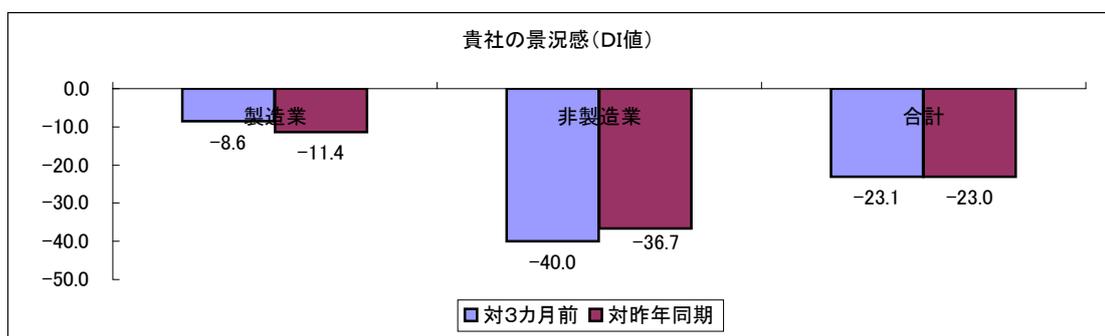


製造業では対3ヶ月前比において20.1ポイント上昇し、調査開始以来初めて本項目でプラスのDI値を記録し、対前年比でも8.6ポイント、マイナス値を縮小し回復傾向となった。一方、非製造業では対3ヶ月前比で6.7ポイント、マイナス値が拡大したものの、対前年比においては23.3ポイントと大きくマイナス値を縮小し、これまで3期連続してマイナス値が拡大していた対前年比で回復傾向が見られ、今後の動向が注目される。

### 3. 貴社の景況感について



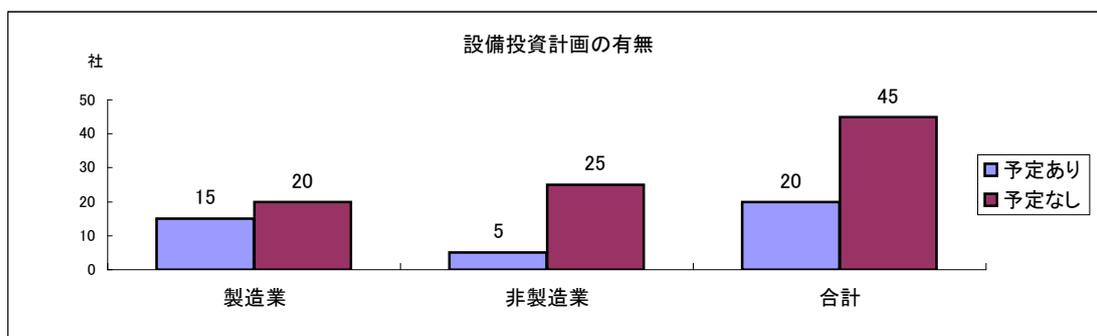
DI値	対3カ月前	対昨年同期	対3ヶ月前 (前回)	対昨年同期 (前回)
製造業	-8.6	-11.4	-17.2	-20.0
非製造業	-40.0	-36.7	-20.0	-40.0
合計	-23.1	-23.0	-18.5	-29.3



製造業では、対3ヶ月前比・対前年比ともに8.6ポイント、マイナス値を縮小し回復傾向となった。一方、非製造業では対前年比において3.3ポイント、マイナス値を縮小したものの、対3ヶ月前比で20.0ポイントもマイナス値が拡大し、回復感は、あまり見られない。今後、この大幅に拡大したマイナス値の変動には、注意が必要である。

### 4. 設備投資計画について

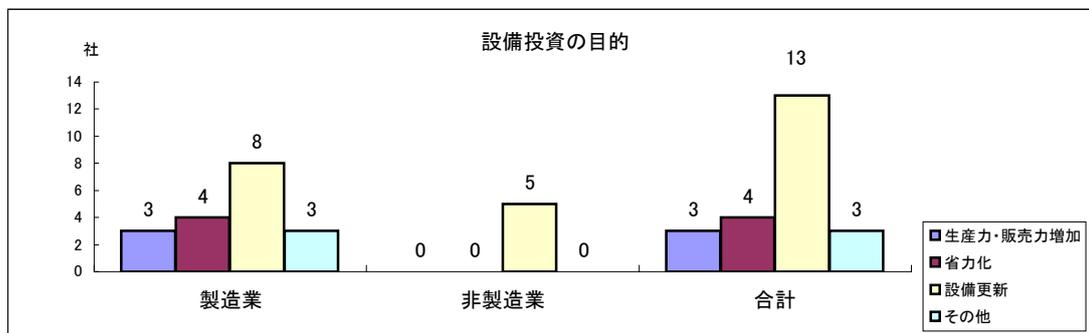
	予定あり	予定なし	合計
製造業	15 [42.9%]	20 [57.1%]	35 [100.0%]
非製造業	5 [16.7%]	25 [83.3%]	30 [100.0%]
合計	20 [30.8%]	45 [69.2%]	65 [100.0%]



製造業では約43%、非製造業では約17%が設備投資を計画している。

## 5. 設備投資目的について

	生産力・販売力増加	省力化	設備更新	その他	合計
製造業	3	4	8	3	18
非製造業	0	0	5	0	5
合計	3	4	13	3	23



製造業・非製造業ともに設備更新への投資計画が最も多く、全体の半数以上を占めた。

コメント： 製造業・非製造業ともに自社業界への見方は依然厳しいものの、製造業では、売上（出荷）額、景況感の対3ヶ月前比・対前年比のいずれもマイナス値が縮小し、特に売上（出荷）額の対3ヶ月前比においては調査以来初めてプラスのDI値を記録し、前回調査に続き、回復傾向となった。一方、非製造業においては対前年比の売上（出荷）額・景況感では、マイナス値を縮小したものの、逆に対3ヶ月前比ではマイナス値が拡大し、回復の兆しは見えるものの、DI値の変動が激しいことから、今後の動向には注意が必要である。